金沢市立病院　地域連携室通信

スクラム

Vol.64

2021.1

《 認知症ケアチームについて 》

副院長・神経内科 科長　杉山　有

当院では外来診療における認知症治療の病診連携を目的として、既に認知症サポート制度を活用させていただき、登録医の先生方を始めかかりつけの先生方と、定期的な情報共有を行って参りました。近年高齢化率の上昇に伴い、あらゆる領域の入院症例において認知症における行動・心理症状（BPSD）の存在が治療の妨げになり得ることがしばしば懸念されます。

そこで当院では令和元年度より、複数名の認知症サポート医と認知症看護認定看護師や各病棟のリンクナースを含む、多職種より構成される認知症ケアチームを発足いたしました。入院症例のうち主に認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方、せん妄リスクのある対象者、身体拘束を余儀なくされる症例などに対して、毎週水曜日に全症例（40例前後）の検討とケアラウンドを行い、2020年1月から12月の一年間で延べ7154件の認知症対策の検討とその実践を行っております。また当チームは入院中の認知症症例の方々だけではなく、当院スタッフにも安心して安全な医療を実践できるための療養環境を提供することを目的として、認知症対応能力向上に向けた院内外の講師による院内研修会の企画、運営も行っております。

2025年にはわが国の認知症症例は700万人、つまり高齢者の5人に1人が認知症という時代が近づきつつあります。そのような時代に向けて、認知症高齢者とそのご家族、日常の診療にあたられるかかりつけの先生方、そして入院医療を受け持つ当院スタッフのすべてにとって安心・安全な療養環境を提供することこそ、われわれ認知症ケアチームの目指すべき最終目標であると心得ております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

《 新型コロナ検査について 》

病理診断科 科長　小林　雅子

当院の臨床検査室には、14名の臨床検査技師と1名の病理専門医が所属し、血液検査、生理検査、細菌検査及び病理検査など多岐にわたる検査を担っています。今回は、コロナ検査について紹介します。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)が拡大し、検査体制が整備されていくとともに、検査法の種類が増え、検査材料 (鼻咽頭ぬぐい液、唾液、鼻腔ぬぐい液、血清など)の幅も広がり、検査の選択や判断が複雑になってきています。ウイルス量が多い場合は抗原検査もPCR検査も陽性となりますが、ウイルス量が少ない場合は検査法によって陽性率が異なるため、ウイルスRNAや抗原量の経時的変化、個々の検査や検体の特性・精度を理解し、目的に合わせて検査を使い分けていく必要があります。当院では、核酸検出検査 (PCR、TRCの3機種)、抗原定性検査および抗体検査が導入され、いずれの検査も24時間体制で検査可能で、かつ約1時間で検査結果が報告できます。

PCR検査が最も精度が高く、PCR検査の普及とともに抗原検査や抗体検査はあまり使用されなくなってきましたが、感染時期によっては、これらを活用することでCOVID-19感染を診断することができます。他院でCOVID-19の抗原検査もPCR検査も陰性であった肺炎紹介患者さんにおいても、当院呼吸器内科医がCOVID-19を強く疑い、核酸検出検査、抗原検査および抗体検査をうまく組み合わせることで、COVID-19感染を証明できた例が何度かあります。優秀な呼吸器内科医と知識・経験豊富な臨床検査技師が協力し、適切な検査法を選択し、丁寧に検体採取から試料抽出、検査を行うことで、正しい診断を導くことができます。当院は感染症指定病院として今回のCOVID-19診療に対応し、専門性の高い医師とスタッフで、質の高い医療体制を提供しています。

私は昨年から、コロナ検査にも対応していますが、専門は病理診断です。登録医の先生と交流する場が少ないですが、自院の病理組織標本を持参されて、相談して下さる先生もいらっしゃいます。当院の病理検査はもちろん、他院で診断された標本でも、不明な点がございましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

《 ERCP困難例に対しての当院での取り組み 》

消化器内科 医長　須田　烈史

内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）は、狭義では内視鏡を使った胆膵管の造影検査を示しますが、広義には検査・治療を含めた意味合いも持ちます。治療としては、日常診療では総胆管結石の治療が多いですが、膵癌や胆管癌などによる悪性狭窄に対してのドレナージも比較的頻度が高いです。胆・膵管への挿管が検査・治療開始のために必要となりますが、熟練者が行っても造影カテーテルを用いた通常法での胆管カニュレーションの成功率は80～95% 程度との報告があります。つまり、100人いれば少なくとも5人は胆管挿管困難例ということです。

当院では通常の造影カテーテルを用いた造影法に加えて、切開用ナイフ（パピロトーム）により角度をつける方法、ガイドワイヤー（GW）を先進させて行われるwire-guided カニュレーションも行っていますが、それでも挿管困難の患者さんはいらっしゃいます。今回、当院での胆管挿管困難に対しての戦略をご紹介したいと思います。

１．膵管ガイドワイヤー留置法

膵管にGW留置を行うことにより、乳頭を固定することができます。その上方にある胆管への挿入が容易になります（図１）。

２．膵管ガイドワイヤー補助下による膵管口切開

1.でもうまくいかない場合は、そのままパピロトームを膵管に入れて膵管切開を行って胆管開口部を露出させて胆管挿管をさせます（図２）。

図１．膵管ガイドワイヤー留置法

膵管にGWを入れて，乳頭を固定．
その上の胆管口を狙う．

図２．膵管ガイドワイヤー補助下による膵管口切開

パピロトームを膵管に入れて膵管切開

胆管挿管が可能となり，GW留置

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

３．プレカット法

1.2.のように膵管にもアプローチが困難な場合は、乳頭部の粘膜を切開して胆管や膵管の開口部を露呈させます。また、膵炎のリスクを考慮して乳頭アプローチを避けた方がよい場合は、乳頭の口側隆起をニードル（針状）メスにてフリーハンドで切開して、胆管口を露出させます（図3）。

図３．プレカット法

針状メスで口側隆起をプレカット　　胆管口が露出

４．超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ（EUS-BD）

超音波内視鏡による治療（interventional EUS）の一つであり、十二指腸や胃から胆管を狙って超音波内視鏡下で穿刺を行い、そこから胆管ドレナージを行う方法です。経乳頭アプローチができない症例に対しては、選択肢の一つとなります。当院では総胆管と十二指腸をステントで吻合してドレナージするEUS-CDSと胆嚢と消化管を吻合するEUS-GBDの経験があります。ただし、慣れた術者や施設でなければ偶発症率が高く、比較的大きな臨床研究をまとめたものでは偶発症率は3.4～38.6%との報告があります。当院では、経皮経肝胆道ドレナージや手術などの他の選択肢を選ぶことが難しいまたは希望されない場合に十分なインフォームドコンセントを行った上で施行しています。EUS-CDSにて金属ステントを留置した一例を提示します（図4）。

図４．EUS-CDS

EUS下で胆管を穿刺　　金属ステントを留置

今年度当院のERCPは、年150件ペースで行っています。EUSはその関連手技を含めて年200件を超える見通しです。高齢化社会となり久しいですが、“高齢者にも安全かつ優しい治療”を今後とも行っていきますので、対象となる患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介をお願いいたします。

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

《 地域連携室年次報告について 》

例年秋に開催しております登録医総会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みてやむを得ず開催を見合わせました。そこで、例年登録医総会にて報告させていただいております「地域連携室年次報告」について、その一部を以下のとおり掲載いたします。

令和元年度の紹介患者総数は、4150人でした。

今後も登録医の先生方が紹介しやすい体制づくりに努めてまいりますので、是非地域連携室までご意見・ご要望をお寄せください。

令和元年度の開放病床新規入院患者数は226名、病床使用率は58%でした。

開放病床については、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、現在は登録医の先生方の要望に応じて最小限で運用しております。

開放病床ご利用希望の際は、地域連携室までご連絡をお願いします。

（裏面に続きます）

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital

在宅療養後方支援病院登録者数は19名増えて計327名となりました。

緊急入院のご依頼にも可能な限り対応してまいります。

対象となる方がいらっしゃいましたら是非登録をお願いいたします。

ハートネットホスピタル・いしかわ診療情報共有ネットワーク（ID-link）登録者数は524名増えて計1613名となりました。

当院では、登録医の先生方からご紹介いただき入院となった方について、積極的にID-linkの同意を取得しております。

また、今年度よりID-link上での診療録の開示を開始しましたので、ご活用いただければ幸いです。

新しい年が明けました。
本年も関係機関との連携に
努めてまいりますので、
どうぞよろしくお願い
いたします。

金沢市立病院 地域連携室
〒921-8105　金沢市平和町3丁目7番3号
TEL:245-2626（直通）　FAX:245-2693（直通）
http://kanazawa-municipal-hosp.com/

All Rights Reserved Copyright 2021 Kanazawa Municipal Hospital